

臨床福祉専門学校
理学療法学科（昼間部）平成 28 年度 第二回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成 29 年 2 月 24 日（金） 18：00～18：40

場所：臨床福祉専門学校 3F 会議室

出席委員及び所属

中村 岳雪（東京都理学療法士協会 理事）

下河辺 雅也（山田記念病院 技師長）

水落 太郎（松井病院 リハビリテーション科主任）

石垣 栄司（臨床福祉専門学校 理学療法学科統括学科長）

吉葉 則和（臨床福祉専門学校 理学療法学科学科長）

樋口 豊朗（臨床福祉専門学校 教務課 主任）

1. 平成 28 年度本委員会での振り返りと今後の展望

石垣：本委員会の場において、「職業理解」をテーマに入学後早期の現場見学、夏期の見学実習後のケア・モチベーション向上を視野に入れた現場指導者との触れ合い、他業種との触れ合い等様々な提案を頂き、それを実演してきた。上級学年時の同取り組みも検討されたが、現カリキュラム上では限りがある事から、いったん「職業理解」というテーマから離れ、普段より実習教育者として、本校の学生に実習教育頂く立場から、「臨床実習」の実施形態、それにおける問題点、改善点について議論する事とする。

2. 意見交換

吉葉：2 年次に行う「評価実習」において、実習中止という判断をせざるおえない状況が続いている。

下河辺：実習教育者との人間関係も理由にあるが、それ以前に学生自身が諦めてしまう傾向がある。

水落：特に昼間部（年齢が若い）の学生に多いのは、最初からモチベーションが低く本当に理学療法士を目指しているのか疑問に思う事がある。
モチベーションの低さには原因が色々あると思うが、学校から離れ医療現場に来た際に、コミュニケーションが取れない、取ろうとしない。
そういう学生は集団の中で立ち位置を見失ってしまう。よって自分自身から諦める傾向がある。

石垣：年々想像力が欠落し、他者の気持ちを理解できない。
言われなければ行動に出ない、悪気はないが、良いことも間違った事もしない、そういう傾向の学生もいる。

中村：そのような課題に対する学校としての取り組みは？

吉葉：入学後に歓迎会やスポーツ大会等、他者との交流を保つための行事があるが参加人数にバラつきがあるので、効果があるのか不明。
また授業でもグループワークを積極的に取り入れ、「自ら考える」機会を積極的に取り入れているが・・・

下河辺：理学療法士という職種の理解については、過去の委員会で提案した入学後の見学実習や、見学実習後の振り返り等、学校としては十分な取組をしている。それでもモチベーションが下がってしまうには水落委員の言う通り、コミュニケーション能力の欠落が原因ではないか。

石垣：医療資格の取得を目指す、スペシャリスト養成の為の専門学校であり職業を理解し、将来像を明確にしているか、入学時の選考でも確認し、下河辺委員の言う通り、カリキュラムの枠組みで入学後にもケアはしているが、背景に家族に勧められた等の事情がある学生のモチベーション維持は困難。それとは別に、個人個人の課題とされる「コミュニケーション能力の欠如」については、打ち手を検討する。

(まとめ)

平成 29 年度教育課程編成委員会について

- ・ 臨床実習（特に 2 年次の評価実習）に対応できず、退学に至る学生の対策が本校の課題の一つであり、その原因について「コミュニケーション能力の欠落」が問題とされる。今後はこの点を焦点に合わせ、改善を検討していく。
- ・ 3 名の委員について、今年度で任期が切れるが、平成 29 年度より引き続き委員としての就任を依頼する。